

チャレンジ賞は山賀信行さん サフラン賞は板原愛さん 第17回受賞者決まる！

30歳代までの視覚障害者を対象に、職業自立して視覚障害者の文化や福祉の向上に寄与している方に贈られる、チャレンジ賞（男性）とサフラン賞（女性）。第17回の選考委員会が、6月13日、両賞を主催・運営する視覚障害者支援総合センター（東京・杉並区）で開かれ、チャレンジ賞は山賀信行さん（35歳、NPO法人スラッシュ）、サフラン賞は板原愛さん（28歳、司法修習生）が、それぞれ受賞者に選ばれました。（本誌）

山賀さんと板原さん

チャレンジ賞を受賞した山賀さんは、東京・荻窪のNPO法人スラッシュ（圓山みち子理事長）の副理事長を務めています。スラッシュは、視覚障害者向けにICT機器の指導・サポートを行なっている団体で、電話サポートや講習会を受けた人は、山賀さんの誠実な人柄と行き届いた指導を、高く評価しているそうです。

また、情報処理点字や専門書朗読の講習会の講師も担当しているほか、日本点字委員会の専門委員に就任して、理数・情報処理点字体系の改訂作業にも参画しています。

自身で立ち上げて運営しているウェブページ「やまさんの森」(<https://yama3nomori.jp/>)は、視覚障害者に便利なサイトとして、多くの人に親しまれています。

サフラン賞を受賞した板原さんは、2018年、視覚障害のある

女性として日本で初めて司法試験に合格しました。現在は司法修習生として、法律家になるための修習を受けています。

法曹界に進むことは、小さいころからの夢だったそうですが、最難関の国家試験というだけでなく、「教材不足」という壁も、板原さんの前に立ちはだかりました。しかし、「あきらめずにやれば、できないはずがない」という信念と、板原さんの夢を「無謀」と否定せず、応援してくれる両親や先生、友人たちに恵まれたことが、難関突破の理由だと、司法試験に合格した際、本誌に寄稿しています（2018年12月号）。

両賞について

サフラン賞は、2003年に解散した財団法人東京サフランホームの残余財産を基金に創設されました。同ホームは視覚障害女性のための全寮制自立施設で、マッサージなどの施術を行ないながら実技訓練、生活指導などの教育プログラムも運営していました。45年間に約100人を社会に巣立たせた実績と伝統の継承が、サフラン賞の設立趣意です。

チャレンジ賞は高橋実・視覚障害者支援総合センター創業者と、当時、視覚障害者用福祉機器メーカー・ケージーエス株式会社の社長だった樽松武男・視覚障害者支援総合センター理事長の思いから誕生しました。「名を成した人へ贈る賞ではなく、これからの若手を励ますような賞をつくりたい」という夢と、「若い視覚障害者が努力すれば報われるという環境づくり」という理念のもとに、2003年、同社の創立50周年を記念した基金の寄附を受けて創設されたものです。

山賀さんと板原さんの喜びの声は、次号以降お伝えします。